

金融経済概況

【全体感】

道北地域¹の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している。

すなわち、最終需要の動きをみると、個人消費は、サービス消費を中心に下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している。観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。住宅投資は、緩やかに持ち直している。

労働需給は、弱めの動きがみられている。金融面では、預金、貸出とも前年より増加している。

【各論】

1. 需要項目別動向

個人消費については、サービス消費を中心に下押し圧力が強まっており、持ち直しの動きが一服している。

主要大型店は、衣料品が低水準となっているものの、食料品は底堅い動きとなっている。家電販売は、横這い圏内の動きとなっている。また、乗用車販売は、供給制約の影響が和らぐもとで、持ち直しの動きがみられている。

観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっている。

旭川地区のホテル客室稼働率、ホテル・旅館宿泊客数、観光客の入込みとも、低い水準にあり、弱い動きとなっている。

公共投資は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

公共工事の発注の動きを示す公共工事請負金額は、高水準ながら弱めの動きとなっている。

住宅投資は、緩やかに持ち直している。

¹ 道北地域とは、上川・宗谷・オホーツク総合振興局管内のことをいう。

新設住宅着工戸数をみると、持家は高めの水準となっている。貸家は減少している。分譲は増加している。

2. 業種別動向

第一次産業では、生乳は出荷が増加している。オホーツク漁業（稚内、枝幸、網走、紋別）の水揚げは、減少している。

第二次産業では、製材は増加している一方、紙・パルプは減少している。

3. 雇用・倒産動向

労働需給は、弱めの動きがみられている。

有効求人倍率（常用＜旭川、北見、稚内、網走＞）、新規求人数（同）とも、弱めの動きとなっている。

倒産件数は、落ち着いている。

4. 金融動向

預金残高、貸出残高とも、前年より増加している。

以 上

<本件に関するお問合せ先>

日本銀行旭川事務所 電話 0166-23-3181

ホームページ <https://www3.boj.or.jp/asahikawa/>